【今週の注目疾患】

【デング熱】

2019 年第 15 週に、県内医療機関から 2 例のデング熱の届出があり、2019 年の累計は 7 例となった。いずれも海外渡航・滞在先で感染したと考えられる輸入例で、感染推定地域はインドネシア 2 例、カンボジア 1 例、タイ 1 例、東ティモール 1 例、フィリピン 1 例、マレーシア 1 例となっている。デング熱は媒介蚊が生息する東南アジア、南アジア、オセアニア、中南米、カリブ海諸国やアフリカの熱帯・亜熱帯地域で発生が見られ、輸入症例としてのデング熱の届出は、渡航先のデング熱の流行の程度や、渡航者数により影響を受けると推察される。東南アジアでは、昨年よりもデング熱の発生が多くなっている地域もあり、昨年の年間累計 8 例と比較すると、2019 年は届出が多くなっている。

表：2018～2019年第15週に県内医療機関から届け出られたデング熱症例の推定感染地　n=15

		診断年・月															
		2018年												2019年			
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
推定感染地	フィリピン			1													1
	インド							1									
	カンボジア							1		2					1		
	ミャンマー											1					
	インドネシア												1	1			1
	ナイジェリア												1				
	マレーシア													1			
	東ティモール															1	
	タイ																1
	総数			1				2		2		1	2	2	1	1	3

デング熱の潜伏期は 2～14 日（多くは 3～7 日）であり、突然の高熱とともに発症する。発熱は 2～7 日間持続し二峰性となることがある。発熱のほか、頭痛、眼窩痛、筋肉痛、関節痛を伴うことが多く、発疹が発症後 3～4 日後に出現する。時に出血やショック症状を伴う重症型のデング出血熱となり、全身管理が必要になることもある。しかし、実際には感染例の多くが症状が現れない不顕性感染と考えられている。

海外渡航の際は、現地での発生状況を確認し、忌避剤の使用や肌の露出を抑え、蚊に刺されないように注意が必要である。国立感染症研究所（※1）では日本のデング熱の輸入例のデータが還元されている。また、WHO 西太平洋地域事務局（※2）において、当該地域のデング熱の流行状況が取りまとめられている。

参考・引用

国立感染症研究所 デング熱とは：

http://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/238-dengue-info.html

※1 国立感染症研究所 日本の輸入デング熱症例の動向について：

http://www.niid.go.jp/niid/ja/dengue-m/690-idsc/6663-dengue-imported.html

※2 WHO 西太平洋事務局 Surveillance-Dengue：

https://www.who.int/westernpacific/emergencies/surveillance/dengue

【麻しん】

2019 年第 15 週に県内医療機関から 2 例の麻しんの届出があり、2019 年の累計は 12 例となった。8 例は発症前に海外渡航・滞在歴があり、うち 7 例について、発症日から逆算して感染時期を考慮すると、その海外渡航中・滞在中に感染したと推察される。

No.	保健所	性別	年齢	病型	発症日	診断日	診断週	接種歴 1回目（年齢）	接種歴 2回目（年齢）	遺伝子型	備考
1	野田	男	40歳代	麻しん（検査診断例）	2月5日	2月12日	7週	有	無	D8	渡航・滞在先（ラオス・タイ）
2	印旛	男	10歳代	麻しん（検査診断例）	2月5日	2月12日	7週	不明	不明	D8	渡航・滞在先（ベトナム）
3	市原	女	40歳代	麻しん（検査診断例）	2月5日	2月14日	7週	不明	不明	B3	渡航・滞在先（フィリピン）
4	市原	男	40歳代	麻しん（検査診断例）	2月14日	2月17日	7週	不明	不明	B3	No.3の家族、渡航・滞在先（フィリピン）、国内で家族内感染と推察
5	市川	男	10歳未満	麻しん（検査診断例）	2月17日	2月22日	8週	無	無	D8	渡航・滞在先（ベトナム）
6	安房	男	30歳代	修飾麻しん（検査診断例）	2月23日	2月24日	8週	有	2 無	B3	No.3の接触者
7	市川	女	30歳代	麻しん（検査診断例）	2月21日	2月26日	9週	有	不明	D8	
8	長生	女	30歳代	修飾麻しん（検査診断例）	2月25日	2月26日	9週	有	有	B3	No.3の接触者
9	君津	女	20歳代	麻しん（検査診断例）	3月4日	3月9日	10週	有	3 無	B3	渡航・滞在先（フィリピン）
10	印旛	男	30歳代	修飾麻しん（検査診断例）	2月27日	3月7日	10週	有	不明	－	
11	君津	男	30歳代	麻しん（検査診断例）	4月3日	4月8日	15週	不明	不明	B3	渡航・滞在先（フィリピン）
12	習志野	女	20歳代	麻しん（検査診断例）	4月8日	4月13日	15週	有*	有*	B3	渡航・滞在先（フィリピン）、ワクチン接種歴は記憶による

海外渡航の際、麻しんに対する免疫が不明な場合は事前の予防接種を奨める。接種にあたっては可能な限り渡航の 2 週間以上前に 2 回目の接種を済ませることが望ましいが、渡航直前に接種する場合は 5～14 日の体調変化に注意が必要である。麻しんは、典型的には感染して 10 日前後経過してから発症することが多いが、長い場合には感染から発症まで 3 週間程度となることがある。渡航中、そして帰国後もしばらくは自身の体調に留意し、帰国後に発熱、咳や発疹など疑われる症状が現れた場合には、周囲への感染の拡がりを防ぐため、公共交通機関の利用を避け、必ず事前に医療機関に電話連絡で渡航歴や症状について伝え、医療機関の指示に従った受診が重要である。

参考・引用

国立感染症研究所：MR ワクチン接種の考え方
https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/MRvaccine_20180417.pdf